

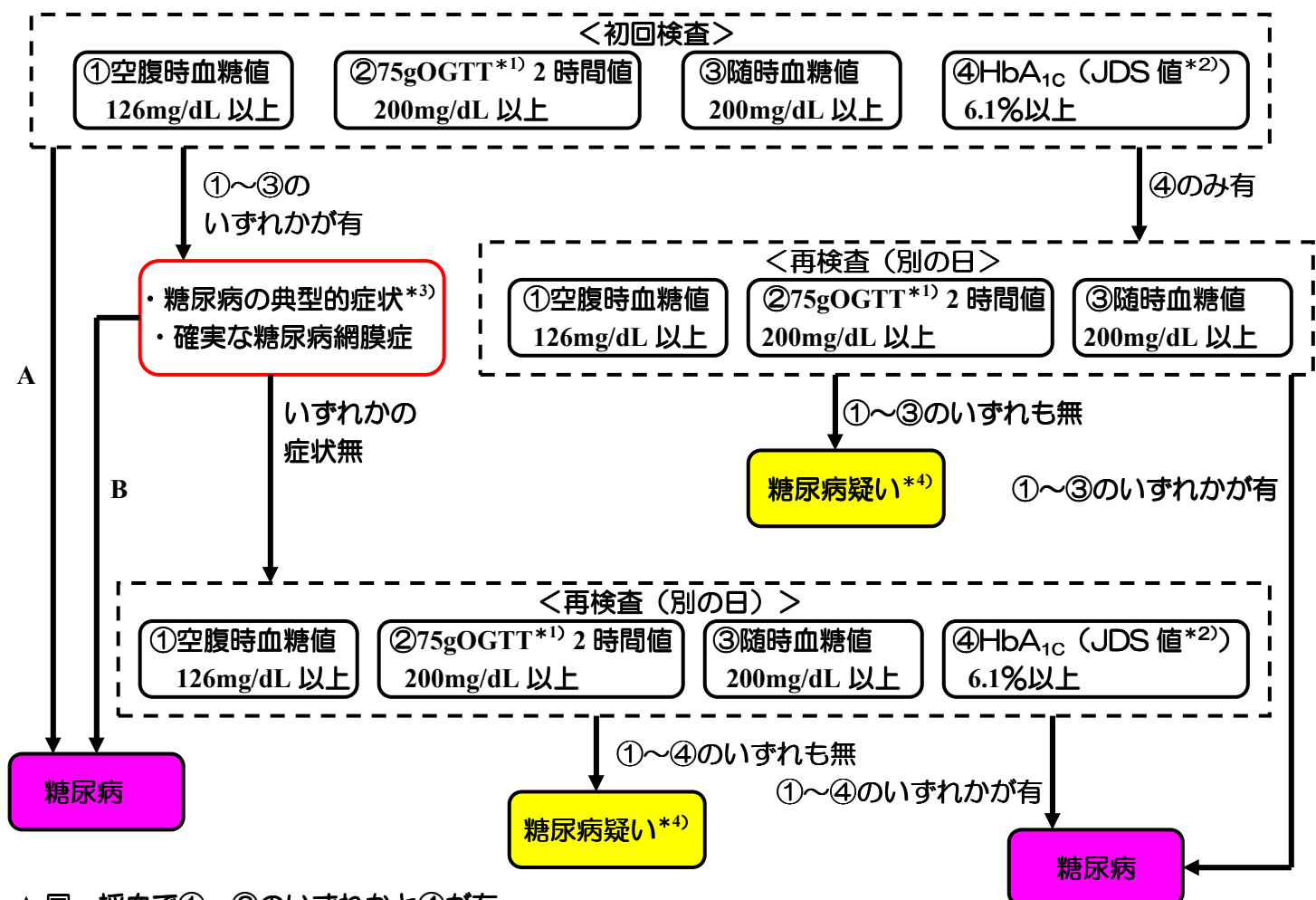
「新しい糖尿病診断基準」について

2010年7月より新しい糖尿病の診断基準を用いることになりました。

日本糖尿病学会は、2010年7月から改訂した新しい糖尿病の診断基準を用いる事にしました。今までは糖尿病診断の補足的な位置づけでHbA_{1c}（ヘモグロビン A_{1c}）6.5%以上とされていましたが、今回の改訂では、HbA_{1c}を積極的に取り入れて糖尿病型の判定にHbA_{1c}の基準値6.1%以上を新設しました。

また、血糖値とHbA_{1c}の同日測定を推奨し、一回の検査で糖尿病の診断が可能になり、より早期から糖尿病の診断・治療が行えるようになりました。

【糖尿病診断のフローチャート】



A:同一採血で①~③のいずれかと④が有

B:いずれかの症状有

*1): 経口糖負荷試験 *2): 後述 *3): 口渇、多飲、多尿、体重減少

4): 3~6ヶ月以内に血糖値^{b)}とHbA_{1c}を同時に測定して再判定

◆新しい糖尿病診断基準の主なポイント◆

- 今までは糖尿病診断の補助的な位置づけであった HbA_{1c} を、糖尿病型^{*a)} の判定基準に取り入れた
- 診断に用いる HbA_{1c} の基準値を、JDS 値で「6.5%以上」から欧米などの診断基準に合わせた「6.1%以上」にした
- 同一採血で血糖値^{*b)} と HbA_{1c} がいずれも糖尿病型^{*a)} を示せば、1 回の検査で糖尿病と診断できるとした
- 糖尿病が疑われる場合には、血糖値^{*b)} と HbA_{1c} を同時に測定する事を原則とした
- HbA_{1c} のみが複数回糖尿病型^{*a)} を示しても糖尿病とは診断できず、1 回でも血糖値^{*b)} で糖尿病型^{*a)} を示す事を糖尿病と診断する条件とした

*a)：糖尿病型とは、検査結果の判定の場合に使用され、上記「糖尿病の臨床診断フローチャート」内の①～④のいずれかの数値を示した糖代謝状態の事

*b)：血糖値とは、上記「糖尿病の臨床診断フローチャート」内の①～③のいずれかの事

【HbA_{1c} の JDS 値と国際標準値】

HbA_{1c} の値は、今までは 1994 年から日本だけで使用されている「JDS (Japan Diabetes Society)」という、日本国内で精度管理・標準化された値を用いていました。日本以外のほとんどの国では「NGSP (National Glycohemoglobin Standardization Program)」という値が使われており、JDS と比較すると約 0.4%高い値を示すという問題がありました。したがって、国際間のデータ比較時に数値の補正が無いままに使われたり、数値の違いが元で日本抜きで国際共同研究が進んだりする可能性があるために、国際的に整合性を図る必要から国際標準化に向けた変更が検討されました。

新しい HbA_{1c} の値への換算

$$\text{HbA}_{1c} (\text{国際標準値}) = \text{HbA}_{1c} (\text{JDS 値}) + 0.4$$

新しい HbA_{1c} の値は、2010 年 7 月 1 日から、今までの JDS 値に 0.4%を加えた、NGSP 値に相当する国際標準化された値 (国際標準値) になりますが、混乱を避けるために、以下のようない段階的運用が行われます。

2010 年 6 月 30 日まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ HbA_{1c} (JDS 値) として 6.5%以上を診断の補助手段として使用
2010 年 7 月 1 日から	<ul style="list-style-type: none"> ・ HbA_{1c} (JDS 値) として 6.1%以上、HbA_{1c} (国際標準値) として 6.5%以上を診断に用いる基準値として使用 ・ 英語の論文、国際学会発表では HbA_{1c} (国際標準値) を使用 ・ 日本語の論文・書籍、国内学会発表では HbA_{1c} (JDS 値) と HbA_{1c} (国際標準値) のどちらを用いても良いが、いずれの表記かを明記 ・ 日常診療・検診・健康診断などでは HbA_{1c} (JDS 値) を使用

国際標準化変更以降

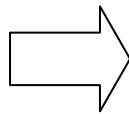
- ・ 2011 年中を予定
- ・ 日付は別途日本糖尿病学会が告知

- ・ 全てにおいて HbA_{1c}（国際標準値）を使用【日本全国一斉に切り替え】
- ・ 日常診療・検診・健康診断などでの検査結果の印字は「HbA_{1c}」のままで変更無いが、脚注などの形で国際標準値表示されている事を明記（国際標準化変更日をもって JDS 値か国際標準値かを区別する）
- ・ 患者様には以前の数値と比較して検査結果が 0.4%高値になっている事を十分に説明

◆患者様に検査地の説明をする際のポイント◆

- HbA_{1c}の診断に用いる基準値が 2010 年 7 月 1 日から 6.1%以上（今までは 6.5%以上）に変更になりました

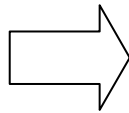
2010 年 7 月 1 日以前
基準値：6.5%以上



2010 年 7 月 1 日以降
基準値：6.1%以上

- HbA_{1c}の数値の表示方法が今後 1 年後くらいに変更される予定です。今までは、日本国内でのみ通用する表記でしたが、国際的な表記に合わせるために変更されます。検査結果に印字される項目は今までと同じ「HbA_{1c}」です。ただし、変更された日を境に基準値が 0.4%高くなります。また、患者様自身の数値は、病態などの変化が無くても 0.4%高く表示されます

2010 年 7 月 1 日から
基準値：6.1%以上
患者様の数値（例）：7.5%



2011 年中の学会が指定する日以降
基準値：6.5%以上
患者様の数値（例）：7.9%

HbA_{1c}（ヘモグロビン A_{1c}）とは

血液中で酸素を運ぶ赤血球中のヘモグロビンとブドウ糖が結合した物質で、血糖値が高いほど量が多くなり、その割合（%）は過去 1~2 ヶ月間の血糖値の平均を反映するため、長期の血糖コントロール指標として用いられています。血糖値に比べて食事や運動による数値の変動がありません。